

第1学年 国語科学習指導案

日 時 平成26年11月7日(木)

学 級 1年B組 男子13名、女子9名、計22名

場 所 1年B組教室

授業者 臼井 省悟

1 単元名 論点をとらえる

学習材名 中心学習材 話題をとらえて話し合おう バズセッションをする(光村1年)

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、話すこと・聞くこと領域の「話し合うこと」に関する学習である。学習指導要領には、話すこと・聞くこと領域の目標として、「話題や方向をとらえて話し合う能力を身につけさせるとともに、話したり聞いたりして考えをまとめようとする態度を育てる。」とある。

「話し合い活動に関するアンケート」を実施したところ、話し合い活動への参加状況について「自分の意見を積極的に発言することが多い」と回答した生徒が、学級の19%しかいないという実態が明らかになった。

本単元では、「バズセッション」を主たる言語活動として設定する。バズセッションは、少人数のグループで考えを出し合う話し合いの手法であり、多くの人が発言をすること、意見を出し合うことで新たな考えを引き出すこと、テーマに対する方向性を捉えることが可能である。また、生徒にとって身近な話題を設定することで、話し合いへの参加意欲の向上も期待できる。今回の学習では、一人ひとりの考えや意見を積極的に引き出すことと、話題や議論の流れを捉えて話し合うことに重点を置きたい。

(2) 生徒観

NRTの結果を見ると、「目的や場に応じて話すこと」と「意図を考えながら聞くこと」の問題の正答率が全国平均よりもやや下回っているが、「適切に話し合うこと」の正答率は全国平均をやや上回っており、話すこと・聞くこと領域の学習は概ね定着していると考えられる。

中学校入学後、話すこと・聞くこと領域において、「友達が感じている“小学校と中学校の違い”をスピーチで伝える」という単元を設定し、生徒は日常生活の中から話題を見つけ、相手にインタビューをし、聞き手にわかりやすくスピーチで伝えるという学習を行った。その学習では、「インタビューを通して話す材料を集める力」「話す速度や音量、調子や間の取り方に気をつけて話す力」「相手や場に応じた言葉を選択する力」の育成を図った。また、毎日の帰りの短学活では、日直の生徒が1分間スピーチを行っており、「話す速度や音量、調子や間の取り方に気をつけて話す力」の定着は、授業以外の学校生活の中でも取り組んでいる。

一方で、「必要に応じて質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理しながら聞く力」や「話し合いの話題や方向を捉えて話したり、相手の発言に注意して聞いたりする力」は、これからの学習で身につけていかなければいけない。学校生活の様々な場面において話し合う場面は設けられているが、一部の発言できる者のみによって進められたり、安易な多数決で結論が下されたりと充実したものにはなっていないという実態がある。また、話し合い活動を行う際に、学級の42%の生徒が「意見が出ない」「意見をまとめることが難しい」と感じている。意見を出すことや話し合いを進めることに関する指導が、小学校から段階的に行われてきているが、今後も継続的に指導し、定着を図っていく必要がある。さらに中学校では、小学校の指導を踏まえつつ多様な形態で話し合える力を育成することが求められている。

(3) 指導観

本単元では、必要に応じて質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理しながら聞く力」や「話し合いの話題や方向を捉えて話したり、相手の発言に注意して聞いたりする力」に重点を置きたい。生徒の実態として、積極的に発言が出来ない(76%)、発言する人がいつも同じ(57%)、意見が出ない(42%)、意見をまとめられない(42%)ことが挙げられる。これらを改善しつつ、話題や議論の流れを捉えて発言できるようにするために、バズセッションは有効である。なぜなら、バズセッションの特徴として、少人数のグループで考えを出し合う話し合いの手法であること、多くの人が発言すること、多くの意見が出されるため整理が必要であること、テーマに対する方向性を捉えることが可能だからである。生徒が自信を持って話し合い活動を行うことができるよう、話し合いの進め方についても全体で確認し、他教科でも活用できる話し合いの手法を身につけられるよう丁寧に指導していきたい。

*話し合い活動に関するアンケート ()内は学級の割合

1. 話し合い活動を行う時に、自分の考えや意見を持って参加していますか。

- ア：話題についてしっかりと自分の考えをもって、話し合いに参加している。(48%)
- イ：話題については考えているが、考えがまとまらないまま参加している。(33%)
- ウ：話題について自分ではほとんど考えないまま、参加している。(19%)
- エ：話題について自分ではほとんど考えないまま、参加している。(0%)

2. 話し合い活動への参加状況について、当てはまるものを選んでください。

- ア：自分の意見を積極的に発言することが多い。(19%)
- イ：積極的に発言しないが、いつでも発言できる状態である。(38%)
- ウ：指名されると発言できるが、自分からはほとんど発言しない。(38%)
- エ：指名されても発言しない。(5%)

3. 授業で話し合い活動をすると自分にとってどんな良いこと(プラスなこと)があると思いますか。

- ・自分の考えと比べることができる。
- ・考えを深めることができる。
- ・考えを広げることができる。
- ・発言力が高まる。
- ・人前で話す緊張感を無くすことができる。

4. 授業で話し合い活動をするとき、うまくいかないことや困ることはどんなことですか。

- ア：発言する人がいつも同じだ。(57%) (複数回答可)
- イ：立場が強い人が決めてしまう。(23%)
- ウ：他の人と考え方(ものの見方)が違う。(0%)
- エ：話し合い中に私語をしてしまう(する人がいる)。(42%)
- オ：話し合いをする前と後で、考えが深まらない(変化しない)。(23%)
- カ：どのように話し合いを進めたらいいのかわからない。(33%)
- キ：話し合いのゴール(最終的にどうなればいいのか)がわからない。(14%)
- ク：話し合いが必要ないと感じる。(5%)
- ケ：人数などグループの問題。(5%)
- コ：話し合いの話題(テーマ)について。(5%)
- サ：意見が出ない。(42%)
- シ：意見が対立する。(5%)
- ス：意見をまとめること(42%)
- セ：その他(0%)

3 単元の目標と言語活動

(1) 単元の目標

①関心・意欲・態度

- ・ 話合いに関心を持ち、意欲的に発言しようとしている。

②話すこと・聞くこと

- ・ 必要に応じて質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理すること。(エ)
- ・ 話合いの話題や方向を捉えて的確に発言したり相手の発言を注意して聞いたりして自分の考えをまとめることができる。(オ)

③伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ・ 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話の中の語彙について関心をもつこと。(イ(ウ))

(2) 本校国語科における言語活動のとらえ

今年度の教科研究主題は、「言葉を通して的確に理解し、論理的に思考・表現する能力の育成」とした。本校の国語科として、この教科研究主題にせまるために、言語活動のとらえを「目的や意図に応じて指導事項を効果的に指導でき、思考して判断して表現するという過程を含んだ単元を貫く課題解決的な学習活動」とし、言語活動を通して生徒の国語の力を育成していくことを意識している。

(3) 本校国語科における言語活動の工夫・充実について

国語科における言語活動の工夫・充実は「生徒に付けたい力を明確にししながら、その力を育む上で有効な言語活動を単元に位置づけ、生徒が課題解決に向けて見通しをもって学習に臨むこと」としている。

その学習を通してどのような力が高まるのかということを生徒が自覚し、その力を高める方法として言語活動を設定している。

(4) 本単元における言語活動の工夫・充実について

バズセッション

本単元で生徒に付けたい力である「一人ひとりの考えや意見を積極的に引き出すことと、話題や議論の流れを捉えて話し合うこと」を高めるために、バズセッションを行う。バズセッションは、多くの人が発言し、多くの意見が出されるため整理が必要であり、テーマに対する方向性を捉えることができる、少人数のグループで考えを出し合う話合いの手法である。司会や発表者などの役割分担を行い、テーマに沿って話し合う。テーマに応じて、グループ内で考えの方向性を捉えて発言したり質問したりしながら話合い、最終的には自分の考えをまとめさせたい。

4 単元の評価規準

1 国語への関心・意欲・態度	2 話す・聞く能力	3 言語についての知識・理解・技能
① 話合いの進め方や話題について、進んで自分の考えをまとめたり、発言したりしようとしている。	① 相手の考えを聞いて、自分の考えとの共通点や相違点を整理している(エ) ② 話合いの話題や方向を捉えて発言し、自分の考えと比較しながら相手の話を聞き、自分の考えをまとめることができる。(オ)	① 相手の話の中に出てくる、事象や行為などを表す語句について関心を持ち、意味を確かめながら聞いている。(1)イ(ウ)

5 単元の指導計画

次数	時間数	学習活動	評価規準	評価方法	指導上の留意点
第一次	第一時	①VTR を視聴し、単元の見通しを持つ。 ③バズセッションの進め方を理解する。	・話合いの進め方を理解することができる。【2-②】	発言 観察 記述の分析 自己評価	・話合いのモデルをVTR で提示する。 ・バズセッションの進め方について共通理解を図る。
第二次	第二時	VTR を視聴し、効果的な話合いにするために気をつけることは何かをまとめる。	・話合いの良い進め方について、進んで自分の考えをまとめようとしている。【1-①】	発言 観察 記述の分析 自己評価	・話合いの話題や方向を捉えて発言したり質問したりすることを理解させる。
	第三時	話合いの話題に対する自分の考えをまとめる。	・話合いの話題に対する自分の考えを、進んでまとめようとしている。【1-①】	観察 記述の分析 自己評価	・生徒の多様な考えを引き出す。
	第四時	①第1回バズセッションを行う。 ②話合いを振り返り、次の話合いに向けて改善点をまとめる。	・相手と自分の考えの共通点や相違点を整理している。【2-①】 ・話合いの話題や方向を捉えて発言し、自分の考えと比較しながら相手の話を聞き、自分の考えをまとめている。【2-②】 ・相手の話の中に出てくる、事象や行為を表す語句について関心を持ち、意味を確かめながら聞いている。【3-①】	観察 記述の分析 自己評価	・時間の確保 ・話合いの活性化を促す机間指導。 ・振り返り用紙の工夫
第三次	第五時	第2回バズセッションの話題に対する自分の考えをまとめる。	・話合いに向けて、進んで自分の考えをまとめようとしている。【1-①】	観察 記述の分析 自己評価	・付箋紙を使用して生徒の多様な考えを引き出す。
	第六時(本時)	①第2回バズセッションを行う。 ②これまでの学習を振り返り、単元のまとめを行う。	・相手と自分の考えの共通点や相違点を整理している。【2-①】 ・話合いの話題や方向を捉えて発言し、自分の考えと比較しながら相手の話を聞き、自分の考えをまとめている。【2-②】	観察 記述の分析 自己評価	・時間の確保 ・話合いの活性化を促す机間指導。 ・振り返り用紙の工夫

6 本時の指導

(1) 本時の目標

- ① 相手の考えを聞き、共通点や相違点を整理することができる。【話すこと・聞くこと(エ)】
- ② 話合いの話題や方向性を捉えて発言し、自分の考えと比較しながら相手の話を聞き、自分の考えをまとめることができる。【話すこと・聞くこと(オ)】

(2) 本時の評価規準

項目	評価規準
話す・聞く能力	①学級スポーツ集会で行う種目を選んだ理由を聞き、自分の考えとの共通点や相違点を整理している。(エ) ②話合いの流れに応じて発言したり、相手の話を聞いたりして、どの種目がふさわしいか自分の考えをまとめようとしている。(オ)

(3) 本時の構想

- ・ 本時は、単元のまとめとして、第2回のバズセッションと振り返りを行う。話合いの時間や振り返りの時間を確保するために、紙板書等を活用して、時間の確保に努めたい。
- ・ 本時は、話合いで常に互いの考えを交流し合っている状態なので、展開部分全てが学び合いタイムとなる。グループでの話合い、全体での発表などを通して、話題に対する自分の考え広げたり深めたりできるよう指導したい。
- ・ 振り返り際には、話合いの内容だけではなく話合いの進め方にも注目させるために、話合いの話題や方向性を捉えて話合いが出来ていたか、話合いを通して自分の考えがどのようにまとまったかなどを自己評価させたい。

(4) 本時の展開

過程	学習活動	指導上の留意点	○評価(観点・規準・方法) ・留意点
導入 (5)	1 前時までの学習を振り返る。 2 学習課題と本時の流れを把握する。	1 第4時で行った話合いの課題などについて確認し、本時の話合いで気をつけることを確かめる。	・導入は短時間でを行う。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 学級スポーツ集会で行う種目は何がいいか話し合っ決めてよう。 </div>			
展開 (35) 学び 合 い タ イ ム	3 バズセッションを行う。 【話合いの流れ】 ① 学級スポーツ集会で行う種目は何がいいか、意見を出し合う。 ② その種目を選んだ理由を比べ、共通点や相違点を整理していく。 ③ 出された意見の問題点について話し合う。 ④ 問題点の解決策や、問題点をクリアする新たな種目はないかなどを話し合う。 ④ グループの考えをまとめる。 4 各グループの話合いについて発表する。	3 話合いの手引き等を活用し、司会者の進行が滞らないようにする。 【話合い中の留意点】 ① 理由をつけて意見を述べさせる。出された意見を記録として残すために付箋紙を活用させる。 ② 共通点や相違点を探させ、似ている意見はないかなど、気がついたことを書き込んだりさせる。 ③ 学級全員で取り組める種目であるか、実現可能な種目であるかなど、出された意見について吟味させる。 ⑤ 安易な多数決や妥協で決めず、その種目を選んだ理由や、その種目の特性などを吟味させ合意を形成させる。 4 話合いの流れ、理由、結果などを発表させる。	・机間指導を行い、話合いの滞っているグループの支援を行う ○【話す・聞く能力】 ①について【観察】 B: 学級スポーツ集会で行う種目を選んだ理由を聞き、自分の考えとの共通点や相違点を整理している。 ②について【観察】 B: 話合いの流れに応じて発言したり、相手の話を聞いたりして、どの種目がふさわしいか自分の考えをまとめようとしている。
終末 (10)	5 学習の振り返りをする。	5 これまでの学習で身についた力を振り返らせる。	・発表メモに、報告する内容をまとめさせる。

